

令和5年度

共同生活援助（グループホーム）

| | |
|--------------|--------------------|
| 法人名称 | 一般社団法人すばる |
| 事業所名称 | ゆいの風／秋桜 |
| 事業所所在地 | 東京都青梅市富岡1丁目179番地の2 |
| 事業所電話番号 | 0428-74-5551 |
| 現地調査をしたユニット名 | 秋桜 |

事業者の理念・方針

| 理念・方針 | |
|---------------------------------|---|
| 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など） | 1)利用者一人一人の特性を理解したうえで支援する 2)能力の維持向上を図り、自立した日常生活を送れるよう支援する 3)衣食住を基本とし、安心して暮らせる場を提供する 4)利用者、保護者の意向を確認しながら個別支援を行う 5)地域社会の一員として生活できるよう支援する |

全体の評価講評

💡特に良いと思う点

- 「なるべく自分の力で生活すること」を基本目標とし必要な時に必要な支援をするよう心がけ、利用者の能力の維持向上を図っている**
 利用者は障害の程度が重度のため、生活全般に介助が必要となっている。その中でも個々の利用者の心身状況に応じて「なるべく自分の力で生活すること」を基本目標とし、必要な時に必要な支援をするよう心がけている。それにより、利用者の機能維持・向上を図っている。利用者のできることとできないことを把握し、できることを伸ばし、できないことを支援するようにしている。介護サービス包括型の共同生活援助であるものの利用者の能力の維持向上を図り、自立した日常生活を送れるような支援の提供に取り組んでいる。
- 利用者の楽しみにつながる、食材豊富で見た目も鮮やかな手作りの食事を提供している**
 調理担当職員による手作りの夕食を提供している。栄養バランスを考慮し食材を豊富に使用したメニューで、見た目も鮮やかな食事となるよう配慮している。提供した献立は日誌に記録し同じメニューが続かないようにしている。利用者の好みを把握して行事や誕生会でも利用者の喜ぶ豪華な食事を提供している。リビングとキッチン是对面しており、職員は利用者とはコミュニケーションを図りながら調理し、楽しい食事になるよう取り組んでいる。
- 利用者が気持ちよく過ごせるよう、清潔で快適な室内環境を整えている**
 リビングは吹き抜けで開放感があり、窓が大きく明るい作りとなっている。大型の加湿空気清浄機を設置し、適宜換気も行っている。各居室には温湿度計を設置し、適温になるよう心がけている。利用者が快適に過ごせるよう、清潔に配慮し丁寧に清掃に取り組んでいる。

✔さらなる改善が望まれる点

- 専門性をもったニーズの把握と支援力のさらなる向上を期待したい**
 障害の程度が重度で自身の意向を訴えることができない利用者が多い。そのため、長年一緒に生活してきた家族からの情報は重要な要素であると認識している。今後は保護者の意向をくみ

取りながらも、専門性をもった適切なニーズの把握と支援力のさらなる発揮に期待したい。自閉症やいわゆる問題とされる行動への支援方法についてもスキルアップをしていきたい。支援の質と個々の職員の支援技術の向上が求められる。

- **記録に関する業務をどの職員も担えるよう、業務分担や研修などの取り組みに期待する**

ケース記録など利用者に関する記録は常勤職員など一部の職員が担っている。個別支援計画に沿った記録の書き方など職員のスキルには個人差があると認識している。状況把握や情報共有など、利用者の支援に記録は欠かすことができない。常勤職員、非常勤職員を問わず記録に関する業務を担えるよう、業務分担や研修などの取り組みに期待したい。

- **大規模災害発生時などに素早く事業所の機能を回復させることができるよう、事業継続計画（BCP）を策定する必要がある**

リスクに対しては、事故防止マニュアルや感染症マニュアルを活用して対策を講じている。具体的な対策は、管理者と防火管理委員会メンバーで判断をするようにしている。事業継続計画（BCP）は感染症対応のものに加え、災害発生時のものを年度末までに策定予定である。重度の利用者を引き受けている事業所であり、その社会的有用性は高く、大規模災害時などにもその機能の素早い回復が求められる。必要性が生じた時に職員自ら判断し、根拠のある有効な行動をとれるようにするためにも、災害発生時のBCPも訓練等を行い、見直しをしていきたい。

事業者が特に力を入れている取り組み

- ★ **帰省の機会を利用して、週単位で振り返り支援内容の変更を臨機応変に実施している**

利用者が週末に帰省するため、週単位で振り返りをしてニーズや課題の洗い出しをしながら臨機応変に細かな支援内容の変更をしている。自宅にいる時のようなアットホームな個別対応をし、利用者一人ひとりに合わせた支援ができています。

- ★ **清潔や快適性に配慮して利用者が過ごしやすい環境を整備している**

建物は平屋作りでキッチンと対面したリビング・ダイニングを囲むように居室が配置されている。リビングにはソファが設置され、利用者がテレビや本などを見て過ごすことができる。ホーム内は清潔に配慮して、利用者が快適に過ごせるよう清掃を行っている。居室に温湿度計を設置し、適温を保持できるようにしている。リビングは吹き抜けで天井が高く、開放感があり窓が大きく明るい作りとなっている。清潔や快適性に配慮して利用者が過ごしやすい環境を整備している。

- ★ **家族と密にコミュニケーションを図り、利用者の意向把握や支援に活かしている**

週末の帰省の送り迎えの際に家族と情報共有をするなどコミュニケーションを図っている。一週間の利用者の様子も詳しく伝えている。日頃から密にコミュニケーションを図り、気になっていること、困っていることなどの話し合いや改善の提案など、具体的な話し合いがしやすい関係を構築している。障害の程度が重度の利用者が多く、長年一緒に生活してきた家族からの情報は、利用者本人の意向をくみ取る上で重要な要素となっている。

利用者調査結果

調査概要

- **調査対象**：在籍する利用者全員を対象とする。
- **調査方法**：聞き取り方式
聞き取り方式にて実施した。グループホームの夕食前の時間を利用し、日中活動の場から戻ってきた利用者に、順次、話を聞いていった。利用者全員に声をかけ、4名の利用者から有効回答を得ることができた。
- 利用者総数：7人
- 共通評価項目による調査対象者数：7人
- 共通評価項目による調査の有効回答者数：4人
- 利用者総数に対する回答者割合（%）：57.1%
- 調査項目：[共通評価項目](#)

| | | |
|---|-----------------|----------------|
| 1. 利用者は困ったときに支援を受けているか | はい 50% | 無回答・非該当 50% |
| 2. 利用者は、主体的な活動が尊重されているか | はい 100% | |
| 3. グループホームでの生活はくつろげるか | はい 75% | 無回答・非該当 25% |
| 4. 職員が利用者の家族等に連絡をする場合、方法や内容等についてあらかじめ利用者の希望が聞かれているか | 無回答・非該当 100% | |
| 5. グループホーム内の清掃、整理整頓は行き届いているか | はい 25% | 無回答・非該当 75% |
| 6. 職員の接遇・態度は適切か | はい 75% | 無回答・非該当 25% |
| 7. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか | はい 25% | 無回答・非該当 75% |
| 8. 利用者同士のトラブルに関する対応は信頼できるか | 無回答・非該当 100% | |
| 9. 利用者の気持ちを尊重した対応がされているか | はい 50% | 無回答・非該当 50% |
| 10. 利用者のプライバシーは守られているか | はい 25% | 無回答・非該当 75% |
| 11. 個別の計画作成時に、利用者の状況や要望を聞かれているか | 無回答・非該当 100% | |
| 12. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか | 無回答・非該当 100% | |
| 13. 利用者の不満や要望は対応されているか | はい 50% | 無回答・非該当 50% |
| 14. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか | 無回答・非該当 100% | |